【システム工学科・工業科目】

各教科・科目	学年 / 類型 / 必履修・選択	標準単位数	1年次(令和7年度入学生) 必履修	1年次 学校必履修	1年次 自由選択	2年次(令和6年度入学生) 必履修	2年次 学校必履修	2年次 自由選択	3年次(令和5年度入学生) 必履修	3年次 学校必履修	3年次 自由選択
工業	工業技術基礎	3～4		4 (4)							
	課題研究	3～4								3 (4)	
	電気実習	6～12					4 (3)				4 (2) ④
	電気製図	2～8					2 (2)				
	工業情報数理	2～4		3 (2)							
	電気回路	4～6						4 (2) ⑤			
	電気機器	4～6									3 (1) ④
	電力技術	4～6									5 (1) ④
	電子回路	4～6					2 (1)			2 (1)	
	通信技術	2～6						2 (1) ※○			2 (1) ※○
	ハードウェア技術	2～8						2(1)⑤,2(1)※○			2(1)⑤,2(1)※○
	デザイン史	2～4									2 ()
	プログラミング実習	6～12						2 (1) ⑥			
	コンピュータシステム実習	6～12									4 (2) ⑤
	制御実習	6～12									2 (2) ⑤
	加工技術応用	2						2 (1) ※			2 () ※
	労働と安全	2						2 (1)			
	プロダクトCAD演習	2						2 (1)			
	3DCAD演習	2									2 ()
	自動車に関わる法令	2									2 ()
	基礎自動車工学	2									2 (1)
	屋内配線施工技術応用	2						2 (2) ※○			2 () ※○
	基本情報処理技術	2						2 (1)			2 (1)
	電子工作演習	2						2 (1) ※			2 (1) ※
	色彩演習	2						2 (2)			2 (1)
	デッサン	2						2 (1)			2 (1)
	グラフィックデザイン実習	2						2 (2)			
専門教科・科目単位数計			9			12～18			13～25		
総合的な探究の時間			0			0			0		
ホームルーム活動			1			1			1		
生徒一人当たりの履修単位数計			34～39			29～35			22～44		

【工学科・令和5年度入学生の習熟度別授業・少人数指導授業等】

習熟度別授業	(1) 数学Ⅰ(4単位)は1学級2展開 (2) 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ(1年次3単位)英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ(2年次2単位、3年次2単位)は1学級2展開
少人数指導授業	(1) 言語文化（2単位）は1クラス2展開で実施。 (2) 体育(1年次：3単位、2年次：2単位、3年次：2単位) 1年次：1クラス2展開 2年次：1クラス2展開 3年次：工業科とデュアルシステム科を併せて、2クラス3展開×2＋1クラス2展開＝8講座 (3) 「働くこと生きること（1単位）」は、ティームティーチング。 (4) 工業：工業技術基礎(4単位)、課題研究(3単位) 及び実習科目は、1クラス3～5展開 工業情報数理(2単位(プロダクトのみ3単位))、機械製図(2～3単位)、自動車製図(2単位) ２，３年次の学校必履修の自動車工学(2単位)、 電気回路(1年3単位)、電気製図(2単位)、電子回路(2単位)、 ﾃﾞｻﾞｲﾝ製図(2単位)、ﾃﾞｻﾞｲﾝ実践(2年2単位及び3年2単位)、 ﾃﾞｻﾞｲﾝ材料(2年2単位及び3年2単位)、は1クラス2展開
備考	(1) １単位時間は45分とする。 (2) 卒業認定修得単位数は、74単位である。 (3) 2年次より次の「科目群(履修パターン)」のいずれかを選択する。 ①プロダクト工学、②自動車整備、 ③自動車製作、④電気システム、⑤コンピュータシステム、 ⑥ビジュアルデザイン、⑦プロダクトデザイン (講座数)の右①～⑦は、それぞれの履修パターン別科目であることを指す。 (4) 「情報Ⅰ」(2単位)は、1年「工業情報数理」(2単位)によって代替履修する。 (5) 「総合的な探究の時間」は(3単位)、3年「課題研究」(3単位)によって代替履修する。 (6) ○は2・3年次同時履修。 (7) ※は履修機会が１度の科目。 (8) ★は在京外国人等対象生徒教科科目。週時程外の放課後に設置する。 (9) 論理国語と英語コミュニケーションⅡは２年次（２単位)及び３年次（２単位）の４単位の学習をもって、科目の履修となる。 (10) 論理国語は現代の国語及び言語文化を履修した後に履修させる。 (11) 日本史探求及び世界史探求は歴史総合を履修した後に履修させる。 (12) 倫理及び政治経済は公共を履修した後に履修させる。 (13) 数学Ⅱと数学Ⅲを履修する場合は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲの順に履修させる。 (14) 数学Ａを履修する場合は、数学Ⅰと並行してあるいは数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (15) 数学Ｂを履修する場合は、数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (16) 物理、化学については、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させる。 (17) 芸術科目については、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に履修させる。Ⅲを付した科目 (18) 外国語の科目において、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目の履修後に履修させる。 (19) 日本語理解については、1年次の修得者に対して日本語検定３級取得には1単位、２級以上取得には２単位の増加単位修得を卒業時に認める。 (20) 特別の教育課程（日本語指導）は指導の対象の生徒のみ実施する。 (21) 自立活動は、通級による指導の対象生徒のみ実施する。 (22) 東京都立工芸高等学校において拠点校実習を実施（ホームページデザイン・インテリア・鋳造について、年間で４時間）。